

ネパールの水害実態撮影

AMDA会員
田中さん帰国



家を奪われ、バラックでの生活を強いられている子どもたち(ネパール南東部バグマティ川流域の町、シタプールで)

NGO活動 協力して

アジア、アフリカ難民の医療救援を続けている「アジア医師連絡協議会」(本部・岡山市榴津、菅波茂代表、AMDA)の会員として、水害に苦しむネパールの被災民救援活動に参加、被災状況や活動の様子を撮影した同市中納言町、写真家田中義郎さん(六四)がこのたび帰国した。写真は計約千八百枚。今月下旬に開かれるAMDAの活動を紹介するパネル展に展示される。

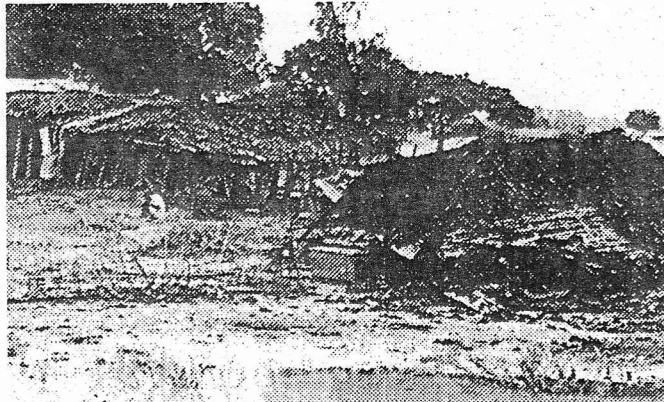
24日からパネル展 岡山市で

田中さんは臨床検査技師に当たった。

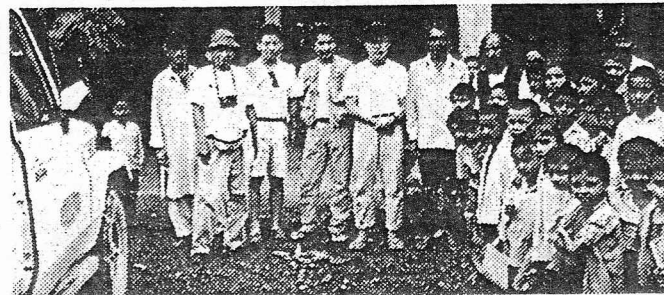
建てて生活する住民の姿など

資格を持っており、今年六月、倉敷市内の病院を退職した。二十年前、岡山大医学部生などが計画した「第二次クワイ川踏査隊」の活動に一緒に参加し、タイやネパールなどでも現地の様子などを学んだ菅波代表が、AMDAの代表として活躍していることを知り、協力を名乗り出た。

早速、AMDAが手がけたネパール大水害被災民の救援活動に参加することが決定。八月下旬、第三陣として、被害が大きかったネパール南東部のバグマティ川流域に向かい、臨床検査技師の資格を生かして検査機器の使い方などを現地医師に教え、薬品の運搬など



①7月の大水害でめっちゃめっちゃに壊れた民家②AMDA医療スタッフとネパールの人たち(左から3人目が田中さん)



模の大きさや、生活環境の厳しさなどが画面から伝わってくる。田中さんによると、農業が壊滅的な被害を受けており、食料は常に不足している。破傷風にかかった住民もいたという。

パネル展は二十四日から同市表町の天満屋岡山店地下市民ギャラリーで開かれる。同市内に拠点を置くNGO(民間活動団体)の活動を紹介、写真はAMDAコーナーに展示される。田中さんは「被害状況をよく見てもらって、NGOの活動に協力してもらえれば」と話している。